

生徒の思考が活性化するための日本史探究 —思考の変容を追いながら自らの考えを深める—

県立小牧高等学校 小椋 光真

1 研究のねらい

本校には、与えられた課題に対して真摯に取り組む生徒が多い一方で、自らの考えを表現することに抵抗感を抱く生徒が少なくない。こうした実態は教員間でも共有されており、「今後どのような生徒を育成すべきか」をテーマとした校内ワークショップにおいても議論の対象となった。ワークショップでは、本校の生徒は正解を待つ姿勢が強く、自分の考えが誤っていることへの不安から、自らの考えを表現することに対して心理的なハードルを感じている傾向にある、という共通認識に至った。

そこで本研究は、授業の中に思考・判断・表現の機会を意図的に設定し、これらの資質・能力を育成することを目指した。スモールステップでの成功体験を積み重ねることで、生徒が自信をもち、表現への抵抗感が軽減されるのではないかと考えたためである。

具体的には、思考のプロセスを教員が一定程度構造化して提示する必要があると考えた。こうしたプロセスに沿って思考と表現を繰り返すことで、生徒の思考が深化していくのではないかと仮説を立て、検証を行うこととした。

2 研究の実際

(1) 単元指導計画

科目名	日本史探究	学年・類型	3年生・文系	単位数	3
単元名	「明治維新と富国強兵」 この単元は、「D 近現代の地域・日本と世界」の「(1)近代への転換と歴史的環境」に該当する。				
単元の評価規準					
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。	幕末期の諸課題と明治政府の諸政策を比較して考察し、根拠を基に考察し、表現している。	/		
次	授業のねらい・学習活動	重点項目 ※1			評価方法
		知	思	主	
1	ねらい「明治の諸政策の目的と影響について考察する」				ワークシートの記述
	①幕末における諸課題を整理する。 ②①を踏まえて、明治政府がどのような政治を行おうとしていたのか、また民衆は何を求めていたのか予想する。		●	●	
2 ・ 3	ねらい「明治の諸政策について理解する」				授業プリントの記述
	③明治政府が実施した諸政策について理解する。	●			
4 ・ 5	ねらい「富国強兵と殖産興業・文明開化の関係について考察する」				授業プリントの記述
	④富国強兵を目指す明治政府が、殖産興業に力を注いだ背景や理由について考察する。		●		

	⑤富国強兵と文明開化との関連について考察する。				
6	ねらい「明治初期の対外関係について理解する」	●			授業プリントの記述
	⑥明治初期の外交方針について理解する。				
7	ねらい「明治の諸政策の目的と影響について考察する。」		○		ワークシートの記述
	⑦幕末の諸課題をもう一度振り返り、ここまでの学習内容を踏まえて、課題と実際の政策をリンクさせつつ分類する。 ⑧明治政府が実施した諸政策の目的について学習内容を踏まえて考察し、表現する。				
	定期考査	○	○		定期考査

※1 指導に生かす評価には「●」、評定に生かす評価には「○」

(2) 第7次の評価基準（ルーブリック）

	A	B	C
思考・判断・表現	明治政府が実施した諸政策の目的や影響について、既習内容を踏まえた上で多面的・多角的に考察することができている。	明治政府が実施した諸政策の目的や影響について既習内容を踏まえた上で考察することができている。	学習内容を踏まえた上での考察ができていない。

(3) 実践と成果

ア 実践のねらい

明治時代の政策に関する学習に先立ち、ワークシート（別添1）を活用した。本実践では、幕末期の諸課題を整理し、それらを踏まえて明治時代にどのような政治が求められたのかを予想することを通して、幕末期の諸課題と明治政府の諸政策との関係について、主体的に追究しながら、学習の見通しをもつことをねらいとした。また、これまでの授業実践から、「予想する」活動であれば、生徒にとって心理的なハードルが低く、取り組みやすいと考えたため、思考・表現の機会として気軽に参加できる場面を意図的に設定した。

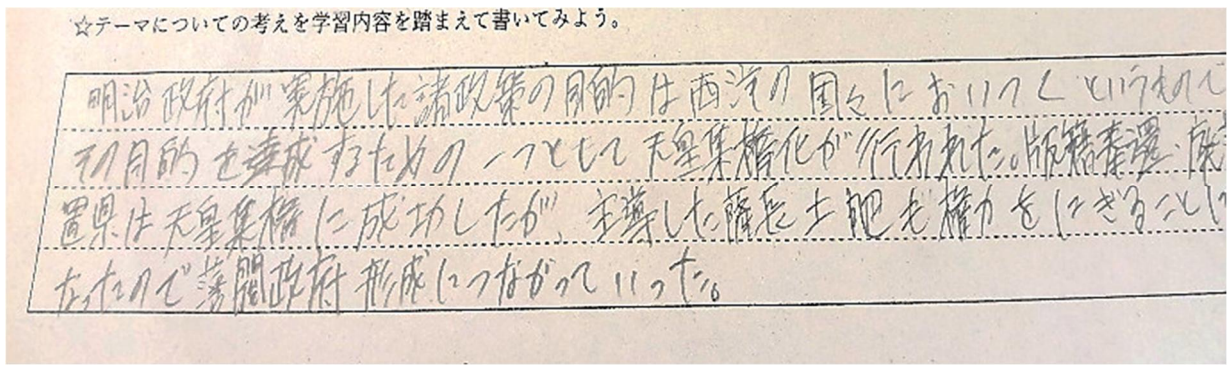
イ 実践の内容

最初に幕末期における諸課題を整理し、それらの課題を解決するために明治政府がどのような政策を行ったのかを予想する活動を行った。生徒は苦戦しながらも、一定程度整理することができた。また、それらの課題に対して、どのような取組が必要であるかについては、生徒同士で多様な予想がなされ、活発な意見交換が行われた。

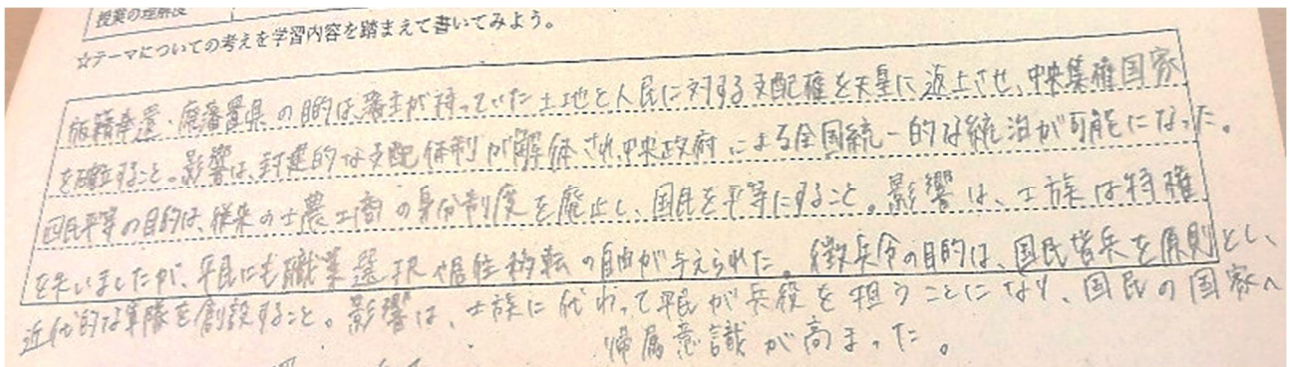
次に、明治時代初期の政治および外交について講義したのち、ワークシート（別添2）の活動を実施した。ここでは、改めて幕末の課題を整理し、これまでに学習した内容と関連付ける作業を行った。この活動は、最終的な到達目標である「明治政府が実施した諸政策の目的とその影響について考察する」ために、生徒の思考を構造的に整理することを目的としている。あわせて、別添1のワークシートで行った事前の予想と、学習後の理解を比較することで、学習内容の振り返りを促し、理解の深化につなげることを意図した。

最後に、まとめプリント（別添3-①）の記述を行った。まとめプリントは、1学期から継続して実施している取組であるが、今回の記述においては、政策の内容とその背景を関連付けて記述しようとする姿が多く見られ、表現の具体性に向上が認められた。この要因として、継続的に自ら考え、表現する機会を設定してきたことに加え、明治政府の諸政策をひとつおりの学習した後に、幕末の諸課題との関連性を再考する時間を設けたことで、明治政府が目指した政治の在り方を、より具体的に捉えることができた点が影響していると考えられる（次頁写真①、次頁写真②、別添3-②）。

【写真① まとめプリント記述】



【写真② まとめプリントの記述】



Ⅰ 成果

今回の取組に対する成果を見取るために、授業アンケート(別添4)を実施した。主な質問内容として、以下の2点を設定した。

(ア) 質問内容①

今回のテーマプリント(別添3-①)を書くことで身に付いた力や自分自身にプラスになったことを簡潔に書いてください。

【主な記述例】

- ・最初の予想と最後にまとめる際の記述が全然違っていて、その変化を感じることができるのがよかった。はじめは書くのが難しかったけど、何回も繰り返しているうちに少しずつまとめ方がうまくなってきて評価も上がったのが嬉しかった。
- ・予想段階の記述と最後のまとめを書くことで、最初自分が予想していた考えが、実際はこんな風に進められていったんだということを感じながら最後のまとめを書くことになるので、今までよりも考える力や授業内容が頭に残るようになったと思った。

質問内容①の【主な記述例】から、学習の初めに立てた予想と学習後のまとめを比較する活動が、思考の深まりや学びの変容を自覚させることにつながったといえる。最初は十分に書けなかった内容が、学習を重ねる中でより具体的で的確な記述へと変化しており、生徒自身がその成長を実感している点は大きな成果である。繰り返し取り組むことで、内容を整理しながら表現する力も高まり、学習意欲の向上にもつながっている。また、予想した内容と実際の歴史的事象の展開を照らし合わせながらまとめることで、単なる知識の習得にとどまらず、「なぜそのように進んだのか」を考える力が育成されている。さらに、自らの考えの変化を振り返る過程を通して、授業内容がより印象に残り、理解の定着にも効果があったと考えられる。

(イ) 質問内容②

ワークシート②「幕末の課題の整理と明治政府の諸政策の関連」(別添2)を実施したことで、テーマの最後のまとめを書く際にどのような変化があったか、簡潔に書いてください。

【主な記述例】

- ・幕末の課題と明治政府の政策がどのようにつながるのかわかったので、明治の政策の理解が深まり、まとめを書くのも今までで一番書きやすかった。
- ・今まではプリントを隅々まで見てまとめを書いていたので時間がかかったけど、ワークシートで政策とその目的を確認できたので、書くのが楽だった。
- ・明治政府の政策を一気に思い出すことができたので、復習にすごく役立ったし、まとめを書く際にも幕末の課題と結び付けやすくて記述内容がより具体的になったと感じた。

質問内容②の【主な記述例】から、幕末の課題と明治政府の政策を関連付けて整理する学習活動が、理解の深化と表現力の向上につながったことが成果として読み取れる。単に政策名を覚えるのではなく、「なぜその政策が行われたのか」という目的や背景まで捉えられたことで、明治政府の政策理解が深まり、まとめの記述も書きやすくなっている。

また、ワークシートによって政策と目的が整理されていたことで、必要な情報を効率よく確認でき、従来より短時間で学習内容をまとめることができた。さらに、既習内容を一気に想起できる構成になっていたため、復習にも効果的であり、幕末の課題と政策を結び付けながら、より具体的で根拠のある記述につながったといえる。

3 今後の課題

幕末の課題整理において、「政治・政策」「外交」「国内問題」など、あらかじめ一定の分類を提示して取り組む機会を設けた。しかし、この分類を設けたことで、生徒が「どの分類に当てはまるのか」に悩み、思考が停滞する場面が見られた。分類はあくまで目安であることを事前に伝えてはいたものの、分類に意識が引きずられ、課題の捉え方が制限されてしまった側面もあったと考えられる。今後は、分類に捉われないように声かけするなど、思考の流れを工夫した実施方法について検討していきたい。

また、幕末の課題整理した後、課題解決のために明治政府がどのような政治を行ったのかについては、イメージすることはできていても、それを言語化することが難しく、ワークシート(別添1)への記述に苦戦する生徒の様子が見受けられた。予想内容の表現については、具体性にこだわらなくてよいことを事前に伝えていたが、それでも表現に戸惑う生徒が多かった。そのため、グループ内でイメージを共有し、共有した内容を基に記述するなどの支援の工夫が有効であると考えられる。

ワークシート(別添2)の活動については、学習内容を整理する上で一定の効果がある。一方、まとめを記述する際に、ワークシート(別添1)を改めて丁寧に振り返る過程が十分に確保できなかった点が課題として挙げられる。ワークシート(別添2)に取り組む中で既習した学習内容を振り返る場面はあるものの、今回はグループ活動を中心としたことで、生徒が個別に振り返る時間が減少したと考えられる。しかし、この活動自体の有効性は認められるので、実施する場面や方法を事前に精査することで、生徒の理解の深化や、自分の考えを表現することへの自信につなげていきたい。